

令和5年度 遊びの広場促進事業

活動事例集



実施期間

令和5年4月1日～令和6年3月31日

北九州市子ども家庭局こども若者成育課



はじめに

北九州市遊びの広場促進事業は、市内の青少年団体等が取り組む子どもの体験活動等に補助金を交付し支援することで、子どもの豊かな人間性の育成と体力の向上に資することを目的とした事業です。

各団体ともにこの補助金を活用し、地域の自然や人材等の特色を生かして、子どもの健全な育成につながる趣向を凝らした取り組みを実施していただいています。

こうした子どもたちを中心とした体験活動が地域の皆様の取り組みの参考になればと思い、本書に事例集としてまとめました。

子どもの豊かな育成の更なる発展を願います。



北九州市子ども家庭局こども若者成育課

目次

- 実施団体一覧 … 1 ページ
- 特定非営利活動法人 猪倉里山を守る会 … 2 ページ
- むかしあそび … 4 ページ
- 生き生きふかまちっ子 … 6 ページ
- 音楽キャンプ実行委員会 … 8 ページ
- 特定非営利活動法人 あそびとまなび研究所 … 10 ページ

～令和5年度 実施団体～

No.	団 体 名 ・ 事 業 名
1	<p>◆特定非営利活動法人 猪倉里山を守る会</p> <p>事業名 高槻の自然を活かした「ものづくり」</p> <p>参加者数：子ども80人、大人18人</p>
2	<p>◆むかしあそび</p> <p>事業名 縁日祭2023</p> <p>参加者数：子ども141人、大人57人</p>
3	<p>◆生き生きふかまちっ子</p> <p>事業名 子ども縁日2023</p> <p>参加者数：子ども175人、大人28人</p>
4	<p>◆音楽キャンプ実行委員会</p> <p>事業名 知的障害のある子どもたちのための音楽キャンプ</p> <p>参加者数：子ども10人、大人18人</p>
5	<p>◆特定非営利活動法人 あそびとまなび研究所</p> <p>事業名 ねいちゃーぼじていぶ 北九州の四季をたのしむ 子どもフィールドワークプログラム</p> <p>参加者数：子ども518人、大人482人</p>

※参加者は延べ人数

団体名 特定非営利活動法人 猪倉里山を守る会

事業名 高槻の自然を活かした「ものづくり」

【事業の目的および内容】

自然豊かな高槻の地域性から、竹・土・木と等の自然の素材を活かした「ものづくり」に取り組み、見守ってくれる地域の方たちと交流することで、子どもたちの健やかな成長と持続可能な社会の担い手となる子どもたちの「生きる力、作り出す力」を育てる。

参加人数 : 子ども80人、大人18人

実施場所 : 高槻市民センター、猪倉 など

1 子どもたちの自主性や主体性を引き出すために工夫したこと

当団体が内容のほとんどを決めてしまっていたため、子どもたちに考えさせる部分をどこにするかというところで、竹のベンチを置く場所、ベンチの設計を子どもたちに考えさせた。

また、ベンチづくり、紙漉き、陶器づくりの時々、こんな時はどうする？ どうすればいいかな？ どうしてそうなったの？ など、子どもたちの考えを聞き出すよう努めた。

2 活動を行う上でのちょっとしたコツ、他の団体へのアドバイス

大人が少し我慢をして、分かっていることでも、子どもたちに考えさせるのが大事なのではないかと思った。

また、小さなことでも、上手くできたら褒めることで、子どもたちの自己肯定感が生まれ、自信となり、やる気につながると感じた。

3 参加者の様子、意識の変化で気付いたこと

高槻小学校は、小規模学校で全児童100名を切る学校だが、それだけに児童の中で兄弟のような感覚が生まれているように思う。6年生が、下級生をとてよく面倒をみていたのが印象に残った。

竹ベンチでの感想に、自分たちが作ったベンチが、地域の人役にたつもので嬉しいという感想があった。ベンチが出来上がっていくにつれ、自分たちが作っているベンチの意味を理解し、喜びも増したように思う。

和紙は座学から始まった。聞いて学んだことと実際にやってみることの大きな違いを感じたと思う。自分でやってみることの大切さを感じたのではないか。

4 ふりかえり

選考の際、子ども達が企画・立案から参加できる仕組みづくり、市内全域から参加者を募るともっとよい、とのご指摘は気づかなかった点だった。今後、子どもを対象にした事業を考案するときは、指摘された点を十分に考慮し、事業に活かしたい。



団体名 むかしあそび

事業名 縁日祭2023

【事業の目的および内容】

実行委員会を重ね、縁日祭に行うゲームの内容を話し合ったりそのための準備や広報を工夫したりする過程を通して、友達と力を合わせてプログラムを作り上げる楽しさや大変さを体験し、子ども同士の豊かな人間性を築き、成就感や達成感を味わう。

参加人数 : 子ども141人、大人57人

実施場所 : 高蔵市民センター

1 子どもたちの自主性や主体性を引き出すために工夫したこと

安全面以外はすべて子どもたちの判断や決定を尊重するようにし、大人はファシリテーターという立場を心がけた。子どもたちがやりたいことが適切な問題解決活動になるように、問題の確認から解決の方法、課題の設定・実行・成果の確認という流れに沿って支援を継続した。実行委員の子どもたちは、ゲームの内容・必要な材料・参加者への説明・当日の進行等、話し合いを重ねながら準備をし、リハーサルを重ねる中で見通しをもって縁日祭当日を迎え、達成感と成就感を味わうことができた。

2 活動を行う上でのちょっとしたコツ、他の団体へのアドバイス

大人の考えでは無理だと思うことも子どもたち自身で体験し、改善することで望む結果を導けるようにする。どんな些細なことでも、子どもたちからの意見やアイデアをよく聞いて褒めるようにすると、どんどんやる気が出てくる。

3 参加者の様子、意識の変化で気付いたこと

会議を重ねるごとに自分が何をすべきかを意識して行動するようになった。最初は恥ずかしい様子で消極的な姿だった子どもが、小さな課題を一つ一つ解決していく中で“自分で創り上げる楽しさ”を味わい、縁日祭当日には大き

な声を出して参加者を呼び込む姿を見せてくれた。実行委員の保護者の関心も高く、12回の会議への参加ができるように協力してくれた。縁日祭当日に参加した子どもや保護者、外部協力の指導者が大変協力的で、実行委員と力を合わせて縁日祭を成功に導いてくれた。

4 ふりかえり

子どもたちをサポートする大人たちも大きな達成感を得ることができた。リハーサルをすることで問題点が見えてきて、それを修正していくことで素晴らしい縁日祭になった。(感想文を学校に持参し、学校教育とも結び付くように校長に伝えた)

今年で10回目の縁日祭になる。来年度以降も継続し、子どもの生きる力を育てていく必要がある。小さな実践だが、12回の実行委員会会議(準備)と縁日祭当日の運営で子どもたちに貴重な失敗体験と成功体験を味わわせることができた。



団体名 生き生きふかまちっ子

事業名 子ども縁日2023

【事業の目的および内容】

地域の子どもたちが校区の夏まつりや、ぶんかまつりに協力し、地域住民の交流や地域の活性化に貢献することで、子どもたちの、地域の一員としての自覚と郷土愛をはぐくむもの。子どもたちが考えたゲーム店を子ども縁日として出店したり、作品を展示したりして、子どもたちだけでなく地域の高齢者等との交流を深める。

参加人数 : 子ども175人、大人28人

実施場所 : 深町市民センター

1 子どもたちの自主性や主体性を引き出すために工夫したこと

子どもたちのやりたいことをかなえられるように、その判断や決定を尊重するように心がけ、大人は支援者という立場を守るように努めた。そうすることで、子どもたちからの発言が増え、自由な発想とともに活動の楽しさを十二分に味わうことができたようだった。

また、保育園の子どもたちの笑顔を思い浮かべながらの準備は、子どもたちの目標意識の高揚となり、活動の充実感や当日の達成感へとつながったように思う。自分以外の人に喜んでもらう喜びは子どもたちの心を満たし、一回り成長したように感じられた。

2 活動を行う上でのちょっとしたコツ、他の団体へのアドバイス

話し合いの結末や活動の見通しを大人が判断して子どもに指示をするのではなく、惑うことや失敗することが成長を促す過程ととらえて十二分な体験ができるようにする。

些細なことでも子どもの意見や発想は貴重な宝物ととらえ、しっかり聞いて褒めることでやる気を育てるようにする。

些細なことでも子どもの意見や発想は貴重な宝で、しっかり聞いて褒め、やる気を育てるようにする。

3 参加者の様子、意識の変化で気付いたこと

はじめは、恥ずかしい様子で消極的な姿だった子どもが、友だちと一緒にひとつひとつ課題を解決していく中で自信も芽生え、創り上げていく楽しさを味わい、自分の思いを言葉に表せるようになってきた。

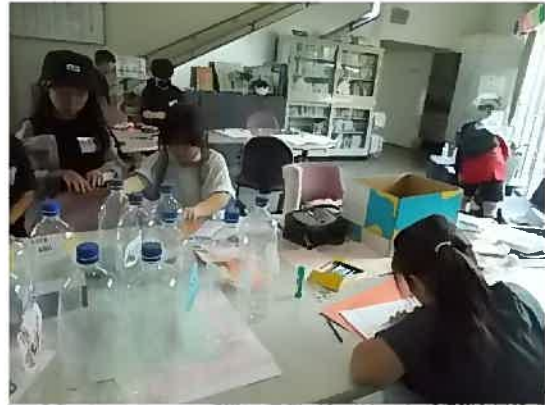
実行委員会を重ねるごとに目的意識が明確になり、活動にも自信と喜びを感じられるようになってきた。

縁日当日には周りの大人が協力的に子どもたちを支援してくれたことで、子どもたちは大いに達成感を味わうことができたようだった。

4 ふりかえり

人に喜んでもらう喜びを味わった子どもは、相手の心も自分の心も満たすことができる。その喜びの心は活動の原動力となり、自主的主体的な態度とともにより多くの貴重な体験で自らの成長を促す。

小さな実践だが、子どもたちに貴重な失敗体験と成功体験をもたらすこの活動は、今後も継続していきたい。そして、地域に育つ子どもたちの人生にエールを贈り続けたい。



団体名 音楽キャンプ実行委員会

事業名 知的障害のある子どもたちのための音楽キャンプ

【事業の目的および内容】

知的障害のある子やその家族が安心して楽しめる環境を提供し、仲間と一緒に思いっきり遊び、交流する場を作る。班に分かれて1組1曲の課題曲を練習して、発表会を行い、解散前にはみんなでセッションをして成長した姿を家族に披露する。集団での食事の準備や入浴、就寝などの過程で自己表現力やコミュニケーション能力を育てるとともに、いつもと違った場所での交流の楽しさを実感してもらい、彼らが自分自身や周りの人々とのつながりを育む場所を提供する。

参加人数 : 子ども10人、大人18人

実施場所 : かぐめよし少年自然の家

1 子どもたちの自主性や主体性を引き出すために工夫したこと

グループに分かれて課題曲の練習を行なった際に、第一印象で好きな楽器を選ばせ、演奏のできるスタッフと一緒にどのタイミングで楽器を鳴らすかなど一緒に考えながら演奏した。

料理を作る際には説明書を見ながらスパイスカレーを作った。

一緒に参加したご家族には、なるべく口を出さないようにしてもらい、調理から配膳まで自分たちで考えて作るように促した。

2 活動を行う上でのちょっとしたコツ、他の団体へのアドバイス

初日のアイスブレイクに音楽療法を行い、声を出す、体を動かすことで、事業に参加する意識を醸成できた。

3 参加者の様子、意識の変化で気付いたこと

普段の生活の中での当たり前のことも親がやっけてしまいがちだが、一人で風呂に入ったり寝る準備をしたりする姿をみて、ご家族は驚いていた。

子どもたちも自信に繋がったようで、積極的に料理の配膳やワークショップに参加するようになっていった。

4 ふりかえり

知的障害の子どもを預けるという不安が、新しい体験をさせてあげたいという希望よりも大きいことがわかったので、活動写真や動画をもとにうまくPRしてきたい。

また、人手が多く必要なため、障害児教育に興味のある学生などをもっと多く集める必要がある。

上記2つを実施するために予算を作る必要があるので、スポンサーや協賛を募って次回に繋げていきたい。



団体名 特定非営利活動法人 あそびとまなび研究所

事業名 ねいちゃーぼじていぶ 北九州の四季をたのしむ
子どもフィールドワークプログラム

【事業概要】

身近な地や農園をフィールドに、四季を通じて出かけて、旬の食べ物や四季の食事、行事などを体験します。

参加人数 : 子ども 518人、大人 482人

実施場所 : ひびきのキャンパス、玄海青年の家、もじ少年自然の家など

1 子どもたちの自主性や主体性を引き出すために工夫したこと

子どもたちにみんなでやりたいことを問いかけながら、日々の活動を行っている。毎月実施される小さな活動や、毎年繰り返される大きな活動は、子どもたちに認知されており、今年はどうだろう？ 今度はどうだろう？ という話をしながら取り組みが進んでいく。活動を楽しみにしている子どもたちが新たに参加する子どもたちを導きながら活動を組み立てて行った。

当法人では区切らない、わけないことを大切にしており、一家族を丸ごと受け入れることで、一家族7人での参加もあり、あかちゃんや幼児、小中学生らが活動に参加していて、多子世帯が多いことも特徴。

2 活動を行う上でのちょっとしたコツ、他の団体へのアドバイス

チャレンジバイチョイス。たくさん異なる年齢の子どもたちが思い思いに遊び始める中に子どもたちが入ると、みんな、自分のやりたいことをし始める。

安全や仲間への配慮、ルールをはじめにしっかり伝えること、撮影禁止であること、お客さんはいないことなどを丁寧に伝え、それを徹底させること。

穏やかな現場であっても、穏やかであるためにこそ、見守りの人員配置を丁寧に行い、見逃しをなくすことが非常に重要。

3 参加者の様子、意識の変化で気付いたこと

こんな活動があるとは知らなかった、うどん作りなどはうちでもやってみよう、というご家族が多かった。

コロナが落ち着いても、インフルエンザなどの学級閉鎖が続いており、参加状況は非常に不安定だった。また、一般のお出かけなども増えてくるので、子どもたち

の自然の中での活動は、優先順位が下がっていくように見受けられる。その必要性和、貴重さを保護者や地域が理解することが非常に重要。

活動の合間に、放課後等デイサービスの皆さんを会場にご案内した。まずは場所慣れから。スタッフも慣れることで、活動の可能性を探っていくことができる。春休みは保育時間が長くなるので、広い場所へ出てのびのびと過ごすことができるとよいと思う。

4 ふりかえり

参加者は一様におどろき、とても喜んで帰られる。もっといつも活動できたらいいのに、と思う。(活動の日常化が課題)

いろいろな活動はつながっているので、竹林や畑の循環の話をする、竹のコンポストにも興味を持ち、後日別会場のワークショップに参加する親子もいた。

玄海青年の家に、不登校児童が日中参加できるフリースペースがある、という話をした参加者がいて、同じような取り組みを市内の少年施設で行って欲しい、という、希望があった。上の兄弟が、不登校になっている、などという訴えも多く、少年自然の家でのんびり過ごせるような取り組みは、非常にニーズがあると思われる。

駅からの送迎などを加えると、親が連れて来なくても良いので、高学年以上の子ども達の中でも、高校生の受け入れができれば、近隣の放課後等デイサービスなども連携して、何かしらのご縁を繋ぐことができると思う。





モデルとなる活動に補助金を交付します!!



遊びの広場促進事業

異年齢集団での遊びや自然体験、社会体験等の体験活動は、子どもの健全な育成にとって欠かせないものです。そこで、市内の団体等が実施する子どもの健全育成を目的とした、他の団体のモデルとなる活動（対象事業は下記参照）に対して補助金を交付し、支援します。

対象事業

- ① 子どもが『企画・立案・実施・体験・ふり返し』に積極的に参画する活動
- ② 小・中学生を中心とした下記のいずれかの活動
 - 自分の責任で自由に遊ぶ冒険遊び場活動（プレーパーク）
 - 遊びをとおした異年齢集団活動
 - 地域の特色を生かした活動
 - 自然観察や自然を活用した遊び等の自然体験活動
 - 勤労体験やボランティア等の社会体験活動
- ③ 先進的な取り組みで、かつ今後の発展が期待できる活動

対象団体

市内の青少年育成団体及び子どもが参加する体験活動等に自主的に取り組む団体・グループで、次のすべてを満たす者。

- 市内の子どもを対象に活動している団体・グループであること
- 営利を目的とした団体・グループではないこと
- 特定の政党を支持したり、もしくはこれに反対したり、または宗教活動を目的とした団体・グループではないこと
- 暴力団または暴力団員と密接な関係を有する団体・グループではないこと
- その他、補助金の交付を行うことが不相当と認められる団体・グループではないこと

※ただし、条件を全て満たす団体・グループであっても、下記の場合は対象外とします。

◆本事業について市から他の補助金等を受けている場合

◆同一団体による同一事業でこれまで継続して3回補助金交付を受けている場合。
（選考の結果、助成を受けられなかった場合はこの限りではありません。）

〈問い合わせ先〉

北九州市子ども家庭局こども若者成育課

〒803-8501 北九州市小倉北区城内1番1号

TEL：582-2392 FAX：582-0070